

平成21年8月31日

加西市議会議長 後藤 千明 様

建設経済常任委員長 桜井 光男

建設経済常任委員会行政視察報告書

下記のとおり行政視察を実施いたしましたので、報告いたします。

記

○日 程 平成21年7月28日(火)～30日(木)

○視察先 山形県長井市、山形県南陽市、山形県鶴岡市

○参加者 桜井光男 井上智章 井上芳弘 小谷安富 後藤千明 吉田 稔
後藤光代(随伴)

○主な視察内容等

長井市・・・「NPO法人レインボープラン市民市場虹の駅」

レインボープランについて(住民が主導する農業と環境をテーマとした事業)

(視察対応者)レインボープラン市民ガイド 渡部嘉子

(視察時間)15:30～17:30

南陽市・・・農業施策について

営農について

(視察対応者)農林課長 鈴木 聡

農林課長補佐 嵐田弘一

議会事務局長 須藤公一

(視察時間)9:30～11:00

鶴岡市・・・コンパクトシティの計画について(都市機能の中心市街地集積事業の展開・人口規模に応じたコンパクトな市街地の形成)

(視察対応者)都市計画主査 早坂 進

議会事務局次長 大滝匡生

議会事務局庶務係長 齋藤 匠

(視察時間)9:00～11:00

【長井市】7月28日（人口 29,878人）

レインボープランについて

長井市では、土・農・食という「いのちの根幹」に化学肥料や農薬の大量投入が暗い影を落としている中、食といのちの安全を未来につなげる基盤、循環づくりに「官」も「民」もなく、市民一体となった取組を進められています。それが「レインボープラン」であります。「レインボープラン」とは、台所が農地と農業の健全化の一翼を担い、対して、農業が市民の台所と食の健康を守る仕組みです。

同じ市内の「まち」と「むら」の連携によって、台所から出る生ごみを資源として活用し、豊なくらしと地域を住民主体で育んでいこうとされています。

1. 背景

① 疲弊してきた農地

昔ながらの豊かな農業を再生し、なおかつ生産を持続していくには、農地に「堆肥」を入れ、微生物が住む豊かな土壌を再生する必要がありました。

② 低い地域自給率

現代の流通経済構造は、台所と農業が隣接するという農村地域でありながら、地元の農産物が地域内で供給されないという現象をもたらした。新鮮でしかも生産者の顔が見える地元農産物は、市場原理や生産者の効率的経済活動などで大都市の消費地へ優先的に運ばれ、市内の店頭にはなかなか出回らないという悲しい現実がありました。

これら、「大量生産・大量消費」の現代社会が抱える弊害ともいえる問題を解消すべく誕生したのが、長井市民が取り組んでいる『レインボープラン』であります。

2. レインボープランの基本骨格

① 有機物の再資源化

長井市内約9700世帯のうち中心市街地約5000世帯から排出される家庭系生ごみ（有機質資源）を分別収集し、その再資源化を図る。生ごみは、副原料となる畜ふん、籾殻を加えることにより発酵し、良質の堆肥として生まれ変わります。

② 土づくりと安心・安全な農産物の生産

生ごみの再資源化によって生み出された良質の堆肥を農地に還元することで、化学肥料等に頼らない自然生態系に即した豊かな土づくりを行うことができる。その結果、作物自体の免疫機能を向上させることができ、減農薬の普及にもつながり「安心・安全な農産物」の生産を推進します。

③ 農産物の域産域消、地元への還元

豊かな土作りに裏打ちされた地元産農産物を地元で流通させることにより、地元消費者の食卓に安心・安全な農産物をとどけて健康な食生活を推進します。

④ 農業の担い手育成

レインボープランによって生み出される「安心・安全な農産物」をブランド化し生産者の所得向上につながる農業構造を作り出し、新たにレインボープランの輪に加わる担い手の育成を推進します。

3. 経過

- ・昭和63年まちづくりデザイン会議の開催（97名の市民が委員になる）
デザイン会議には、「農業」「工業」「女性と都市」「市街地活性化」「周辺開発」5つの分科会が設けられ、意見交換が行われた。このうち「農業」分科会では、経済性だけを優先させる農業ではなく、①農村との関わり ②自然サイクルと生産の関わり ③農地が果たす環境保全の役割などに着目した基本視点が重要と活発な議論が進められた。
- ・平成元年、快里（いいまち）デザイン研究所の開催。（97名から特に意欲のある方18名が参加）
有機肥料の地域自給（生ごみのリサイクル）システムが提案された。
- ・平成3年レインボープラン調査委員会設立。
生ごみのリサイクルの可能性について市が調査を委託。
行政が参加しやすい環境を整備しようと、発案者3名は組織づくりに奔走、市民の一部の提言を全市民の関心事にたかめよと、消費者、生産者、商工団体、農業団体、医師の方々の参画が得られた。
- ・平成4年 レインボープラン推進委員会が設立。
- ・平成5年 行政側として、農林課内に「レインボープラン推進係」を設置。
- ・平成6年度から、（有機農産物栽培研究事業の実施）参加農家を募集して有機農産物栽培研究事業を行いました。生産現場である農家と流通の現場である市場・小売店の連携を確認する実験が必要不可欠と考えられた。具体的には、生産した研究農産物に生産者名、栽培概要などを記載した紙を添付し、市内2つのスーパーマーケットを通して市民に販売しました。その結果、消費者の評判は上々でしたが、安定的な供給体制の確立などいくつかの課題が浮かび上がってきたこともまた事実でした。
- ・平成7年 長井市環境保全型農業推進方針が策定。
- ・平成8年 コンポストセンター竣工（農林水産省補助事業適用）
- ・平成9年2月 レインボープランコンポストセンター運用開始（堆肥生産の開始）
家庭系生ごみ、畜ふん（乳牛ふん）、初穀の3原料から堆肥（コンポスト）の生産を開始
- ・平成9年 レインボープラン推進委員会から発展した「レインボープラン推進協議会」が設立。
- ・平成10年 コンポストセンターに汚水処理施設を増設。
- ・平成16年 国の構造改革特区に指定され、消費者が農業に参加する「NPO法人レインボープラン市民農場」が設立。
- ・平成17年 レインボープラン農産物の流通強化の一環として「直売機能」「学習機能」「交流機能」を併せ持つ「NPO法人レインボープラン市民市場虹の駅」が設立。
- ・平成20年 レインボープラン推進協議会事務局が民間へ移管。

※アンケート調査の実施

内容はまず「堆肥センター設立構想に関するアンケート」。その目的は、堆肥の必要性和生ごみを主原料にした堆肥を使用する考えがあるか否かを探るものでした。結果は、肯定的な意見が高い比率を占め、レインボープラン推進委員会は自信を深めた。さらに、「生ごみの分別と農産物の消費行動に関するアンケート」をより広い市民を対象として実施、これによりシステム導入に大きな障害はないと最終的に判断。

4. 堆肥生産

これまでレインボープランコンポストセンターでは、一般家庭から収集される家庭系生ごみと畜産農家より供給される乳牛ふん、農業廃棄物である初穀を原料としてコンポスト（堆肥）を製造されています。発酵方式は、横型パドル式発酵槽を用いた高速堆肥化方式で総工程80日間で製品が出来上がります。（年

間投入量は平成19年度で、生ごみ927t、畜ふん446t、もみ殻164t)

生産された堆肥は、山形おきたま農協を通して市内の農家に販売され、農家ではこの堆肥を使って土づくり取り組み、レインボープラン推進協議会独自の農産物認証制度に基づいて、化学肥料や農薬使用を抑制した農産物を生産しています。認証制度により生産者の顔が見える、安心して食べられる農産物を、レインボープラン農産物取り扱い店を通して市民の食卓に届ける。認証制度により生産者の顔が見える、安心して食べられる農産物を、レインボープラン農産物取扱店を通して市民に届ける「地域内循環システム」が機能されています。

5. コンポストセンターの概要

生ごみは長井市内約9700世帯のうち中央市街地の約5000世帯より収集しています。家庭では、三角コーナーなどで生ごみから水を切ったあと、家庭用バケツ(バケツ容量18ℓ)に保管します。家庭用バケツにも水切りがついており、家庭段階での水切りの徹底が図られます。水分はごみ重量の増加と発酵の阻害要件となりますので家庭段階での除去が重要です。

- ① それぞれの専用投入口から投入された生ごみ、畜ふん、初殻を1次発酵槽に投入します。
- ② 1次発酵槽では「横型パドル」とよばれる攪拌装置により攪拌され、酸素がまんべんなく供給されることにより好気性発酵が促進され、発酵槽を出る頃には初殻及び発酵しない残渣を除いて原料の形状はほぼなくなります。この工程を1次発酵と呼びますが、工程は15日、発酵温度は60℃～80℃になります。なお、コンポストセンターでは、発酵促進剤の投入は行わず、土着菌の力によって発酵を行っています。
- ③ 1次発酵が終了したものは、ホイールローダーで移送され、2次発酵の工程に付されます。2次発酵過程は基本的には静置発酵と呼ばれるもので、ホイールローダーによる切り返しを行うことにより酸素を供給し、発酵を進めます。工程は25日間です。
- ④ 2次発酵の工程が終了した段階で、異物除去工程に入ります。磁選機(電磁石)により金属類を分離、トロンメルスクリーン(ふるい)でビニール類・その他骨類など未分解のものを除去します。
- ⑤ 異物除去を行ったコンポストは製品化の最終段階である3次発酵工程におかれます。3次発酵も基本的に2次発酵と同じ静置発酵で、ホイールローダーによる切り返しを行い、酸素を供給し発酵を進めます。工程は40日間です。
- ⑥ 以上、80日の行程を経て、コンポストは出来上がります。製品は堆肥貯留棟へ保管され出荷の日を待ちます。

生ごみはコンポストセンターの専用投入口からプラントに投入され、別投入口からそれぞれ投入された畜ふん、初殻と混ぜられる形で発酵槽に投入されます。

処理能力と製品製造能力

レインボープランコンポストセンターの計画処理能力は、3原料総計で2,400t/年(9t/日)です。1日あたりで見ればおよそ以下のようになります。

原 材 名	1日あたりの投入量	→	1 年 あ た り の 堆 肥 生 産 量	
家庭系生ごみ	5トン		→	400～500トン
畜 ぶ ん	3トン			
初 殻	1トン			

コンポストの販売

生産されたレインボープランコンポストの販売は、山形おきたま農業協同組合に委託しています。コン

ポストの販売形態と販売価格は以下のとおりです。

販売形態	販売価格 (税込)	販売場所
10kg袋詰め	241円/10kg	長井グリーンセンター
バラ売り (計り売り)	4,200円/トン	あやめ支店購買

6. その他

- ①リーダーの献身的な取り組みと女性パワーがまちを動かした
- ②地域のオピニオンリーダーが理解と協力
- ③トップの決断、事業推進を政策の柱にとらえられた

【南陽市】7月29日 (人口 34,644人)

農業施策・営農について

- ・赤湯温泉でぶどうジュース発売、デラウェアは日本一の生産高
- ・米は (はえぬき・コシヒカリ・ひとめぼれ) の3品目が主体
- ・山形と米沢の中間で勤めに出る人が多い。後継者は10名前後、1940ヘクタールしかない。
- ・大規模農家は増えているが、耕作面積は減少している。
- ・ぶどうは傾斜が30度でいいものができるが作業は大変である。
- ・ぶどうは270ヘクタール、作業は大変で高齢者の生産者はひらばに移行しつつある。
- ・お米10アールの生産金額は、H18年度127,100円、ぶどう・もも・おうとうは523,000円

1. 営農による農地の集積

- ① 農業経営基盤強化促進法に基づく農地流動化の促進 (法律に基づくもの)
- ② 認定農家農地流動化助成金 (市単独補助)

認定農業者及び認定農家への集積による規模拡大や団地形成による農地集団化・連単化を促進するため、集積の面積・貸借期間に応じて、貸し手及び借り手に助成金を交付

	設定	期間	貸し手	借り手
基本額 (40a~1ha)	新規	6年以上10年未満	2,000円	3,000円
		10年以上	4,000円	6,000円
	再設定	6年以上10年未満	1,000円	2,000円
		10年以上	2,000円	4,000円
加算額 (1ha超)	新規のみ	6年以上	8,000円	2,000円

認定農家農地流動化助成金の交付実績

年度	件数	助成金額 (円)	対象面積 (㎡)	備考
平成17年度	14	987,100	92,656	
平成18年度	28	1,709,500	150,333	

平成19年度	41	2,360,200	218,038	
平成20年度	32	1,578,800	180,374	

③ 特定農用地利用改善団体

市内新田地区内の農用地を有効に活用し、農業経営の改善を図るため、平成19年に新田地区農用地利用改善組合が設立され、市が、その特定農用地利用規程を認定している。地区内の農用地の作業受託を受ける組織である中川南営農生産組合は、その農業生産法人計画において、地区内22ヘクタールの農作業を受託することを目標に掲げている。現在、13ヘクタール程作業を受託している。

2. 農業の担い手確保について

農産物価格の低迷から、農業者の高齢化、兼業農家が進んでいることもあり、地域農業を支える農業の担い手の確保が要請されている。南陽市では、認定農業者及び集落営農組織を農業の担い手と位置づけて、支援を行っている。

平成20年度は、認定農業者等を対象にした視察研修や専門家等を招いての研修会を実施した。また、青年農業者及び女性農業者を対象に、青年女性講座を実施した。さらに、青年農業者組織への支援も実施した。新規就農者が行政に望むことを把握するために、新規就農者宅への訪問は毎年実施している。

今年度は、市外からの就農希望者にも目を向け、働きかけを行っている。

担い手数の推移

年度	認定農業者数	集落営農組織数	新規就農者数
平成17年度	193	0	10
平成18年度	220	0	10
平成19年度	239	1	5
平成20年度	287	1	5

3. ワインの販売実績

南陽市では約300年前からぶどうの栽培が始まり、ワイン醸造も100余年の歴史を誇る。山々の南向きの傾斜地は、日照時間も長く、水はけが良いため、ぶどう作りには最適である。白龍湖周辺には数多くのぶどう畑が広がっており、その光景は観光客の目をひく（南向けで水はけがよい・パッチワーク状）であり、「美しい日本のむら景観百選」にも選出されている。南陽市には、4軒のワイナリー（大浦ぶどう酒、酒井ワイナリー、佐藤ぶどう酒、須藤ぶどう酒）があり、各社とも自家農園ぶどう・地元栽培ぶどうを原料とし、機械化による大量生産をせず、昔ながらの手造りにこだわったワイン造りを行っている。ワインはほとんどおみやげ用となっている。

平成20年度の市内4社の精成数量及び課税数量

	量 (キロワット)	備考
製成数量	120	その年に製造量
課税数量	95	その年に売った販売量

山形ワイン酒造組合

4. 農業体験ツアー

①農業ワーキングホリデー（働きながら休日を楽しむ）

(財)やまがた農業支援センターが、県外からの新規参入を促すために、平成20年度から実施している事業であり、受入れ農家を市町村が募集する(今年度は1市2町が協力)。

参加者は、農作業をすることで収入を得ながら一定期間(1週間以内)滞在する。

宿泊施設は、市町村又は参加者が自ら準備する。

受入れ農家は、参加者に対し労働報酬を支払い、支援センターは、受入れ農家に指導謝礼として1人当たり1万円を支払う。

②農作業体験ツアー

東京で活動する農家出身者の団体と連携して、春に田植ツアー、秋には稲刈りツアーを実施する。さらに、収穫した米の試食会の開催を予定している。

田植ツアーでは、地元農業者の講演会や、田の生き物調査、地元の若者たちとの交流会も実施し、東京・地元からそれぞれ30人程が参加した。

農水省の補助事業であるアクションサポート事業の一環として、全額を国庫補助金より実施。

③ 農家弟子入り制度

- ・農業経営を移譲したい農業者と、農業経営を継承したい就農希望者を引き合わせる。
- ・指導料として移譲希望者に1ヶ月当たり1万円、研修費用として継承希望者に生活支援として1ヶ月当たり9万円補助する。
- ・継承希望者は自宅から通勤可能な市内在住者に限定する。
- ・最大12ヶ月の研修となっている。年齢制限はない。
- ・2週間程度の事前体験研修により判断後、技術・経営承継実戦研修を実施する。
- ・その後、当事者が経営継承合意書を締結する。

【鶴岡市】7月30日 (人口 140,896人)

コンパクトシティについて

まちの現状

- ・青壮年層を中心とした「ゆとりある環境」を求めて郊外へ住み替え
- ・中心部の商店のみならず、既存住宅を含む市街地中心部の空洞化が著しい
- ・H15年度高齢化率23.9%
- ・2030年が1つのバロメーター・2,000年に人口30%減る(課題)
- ・中心市街地は人口減少、高級施設、官庁街で学校、公共施設が集中している。
- ・イオンがH14年に開店し、車で20分程度の時間でいける。田んぼの真ん中にあり、市民にとっては利便性が上がるが、鶴岡市のまちが分散化していく。

1. 中心市街地の現状

- ・(傾向) 公共施設は中心部の4km²範囲内に集中、居住施設は中心部の4km²範囲内が激減
- ・(対策) 中心市街地の利便性を高め、流入人口及び周辺地区の居住人口を促進する。
公共施設の郊外移転に伴う商業機能移転や宅地化を阻止できる。

2. 市民と協働のまちづくりの取り組み

官・民・学三者連携のワークショップを開催しまちづくりの計画を策定してきた。

- ・中心市街地活性化基本計画（H11年3月）
- ・歩いて暮らせるまちづくりモデル調査（H13年3月）

早稲田大学理工学部佐藤滋研究室による「まちづくりデザインゲーム」を活用

3. まちづくりの方向性（都市計画マスタープラン）

- ・無秩序な市街地拡大の抑制し、都市コストを低減させ、人口規模に応じた都市づくりのために、高度経済成長期に分散した都市機能の中心市街地への再集積を図る。

4. コンパクトシティの理論（景観配置の行政施策）

- ・都市景観（山当ての道筋や城下町の風景を残す街並みへの配置
- ・「鶴岡市景観形成ガイドプラン策定」（H2年3月）
- ・「都市計画法の線引き制度」導入（H16年5月）
- ・「大規模建築物等の景観に関する条例」導入（H16年12月）

市内全域を対象に、高さ13m（工作物15m）または延べ床500㎡を越える大規模建築物等の新增改築、移転、修繕について事前届出により審査を行う。

- ・H17年に1市4町が合併
- ・中心市街地にもともとある施設は外に出さない。新しい公共施設は中心市街地に建てない。

5. コンパクトシティの実戦

～都市機能の再集積化・新たな都市機能の導入・歩いて暮らせるまちづくり・都心居住の促進

(1) 鶴岡タウンキャンパス

①H13年5月 慶応義塾先端生命科学研究所

②H17年4月 東北公益文科大学大学院

(2) 「市立庄内病院」のまちなか移転

H15年7月開院、診療科目24科、病床520床を数える庄内地方の中核病院である。

(3) 鶴岡アートフォーラム

H17年8月オープン。市民ギャラリー。

常設展示を持たない市民創作展示や地域関連芸術作品の展示ギャラリー

(4) 鶴岡市総合保健福祉センター（仮称）

健康づくり機能、子育て・家庭支援、休日診療所、地域コミュニティセンター、行政施設等の健康部門と福祉部門に関する拠点施設

(5) 藤沢周平記念館（仮称）

藤沢周平の業績と貴重な文科資料を後世に伝える

6. 歩いて暮らせるまちづくりの推進（個性あるまちづくりプロジェクト）

(1) シビックコア整備事業の推進（官公庁が集団的に立地）

高度成長期に分散した都市機能の再集積を図る目的で、移転開業した庄内病院跡地への出先機関の合同庁舎を核としている。

対象エリア：旧庄内病院跡地を活用した約3.2haのエリア

事業年度：H17年～21年度（国土交通省まちづくり交付金）

主な事業内容：国の第2合同庁舎建設誘致（H23年以降）税務署、地方検察庁支部、職業安定所、農業統計情報センターの4庁舎合同施設

(2) 元気居住都心プロジェクトの推進（遊休土地活用）

団塊の世代を中心としたシニア活動拠点整備とまちなか居住の推進

事業の三本柱：都心（まちなか）居住の推進

：元気シニアの活動拠点整備（シニアコミュニティによる都市再生）

：民間事業整備手法

付加価値を付けた民間住宅

(3) 山王まちづくり事業の推進（商店街によるまちづくり）

持続可能な商店街「市民の生活の場としての商店街づくり」

事業目標年度：H18年～23年度

事業主体：鶴岡市・山王商店街（指導）早稲田大学佐藤慈研究室

	プロジェクト	プロジェクト内容
1	みち空間再生プロジェクト	現道幅維持、歩車道の一体化、全面融雪等
2	山王商店街ファサード改修整備事業	道路整備と合わせ、各店舗のファサード改修と店舗内部改修に助成
3	山王ふれあい・賑わいゾーン整備	区画道路部分の用地買収を地権者がゾーン整備事業に充当するミニ区画整理方式。 (用途) 駐車場・ポケットパーク・貸し店舗等

(4) 松文産業工場跡地整備事業（民間の活用によるまちづくり1）

「映画館・文化機能」の集積による集客施設の形成

事業目標年度：H21～23年度

事業主体：㈱まちづくり鶴岡

事業箇所：中心市街地 山王町地区

昭和初期建築の絹工場「松文産業工業」の移転に伴い、木造の産業遺産を活用した

アミューズメント施設：シネマコンプレックス、貸しスタジオ、撮影スタジオ等

(5) 旧エビスヤ薬局跡地整備事業（民間の活用によるまちづくり2）

持続可能な商店街「市民の生活の場としての商店街づくり」

事業目標年度：H20～22年度

事業主体：㈱まちづくり鶴岡

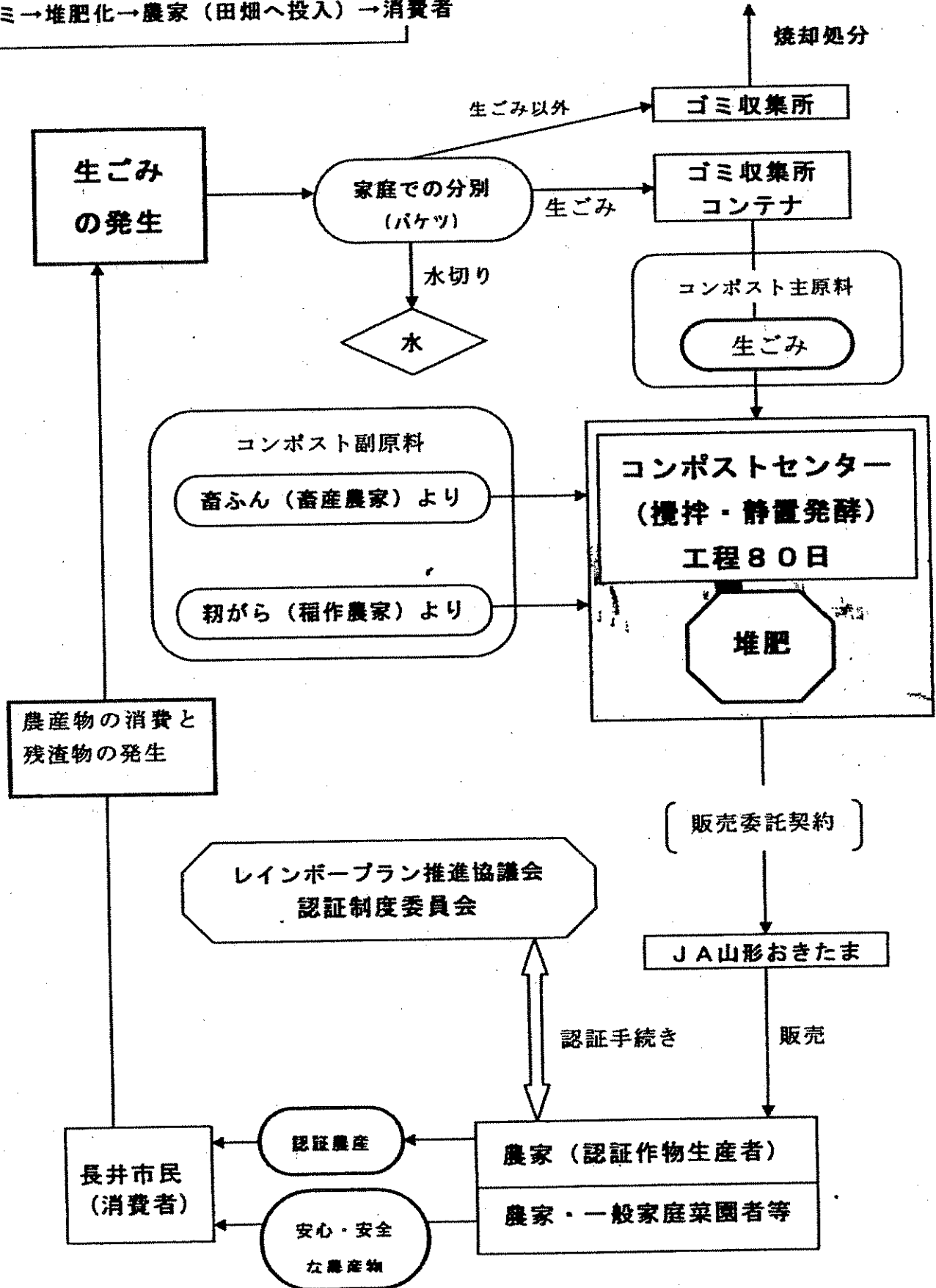
事業箇所：中心市街地 銀座商店街地区

昭和3年建築のコンクリート造「旧エビスヤ薬局」跡地を活用したアミューズメント

施設（地域工芸クラフト体験工房、展示、販売、情報発信等）

レインボープラン全体の流れ

地域内循環のフローチャートを以下に表示します。
 生ゴミ→堆肥化→農家（田畑へ投入）→消費者



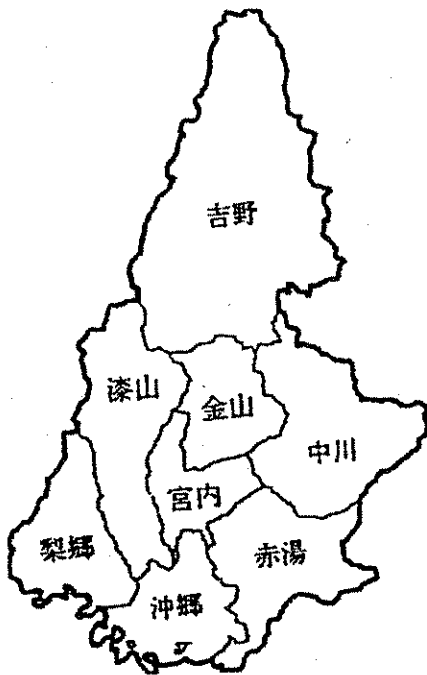
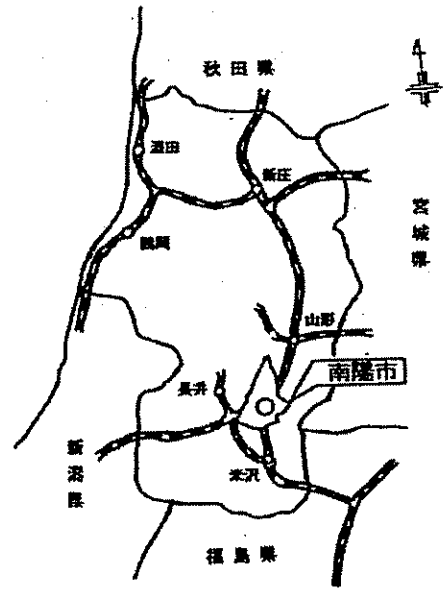
I 南陽市の概要

1 位置と概況

南陽市は、山形県の南部、置賜盆地の東北部に位置し、山形県の形を人間の横顔に見たると「エクボ」に位置しています。

北緯 $38^{\circ} 3' 7''$ 、東経 $140^{\circ} 9' 5''$ の地点を中心に広さは、東西が 14.8 km、南北が 22.6 km の総面積 160.70k m² で、西洋なしに似た形となっております。

北端に標高 994m の白鷹山がそびえ、この山塊を源にして南北に吉野川、織機川が流れ、市の端を南から西に流れる最上川とそれぞれ合流し、置賜盆地の一部を構成するこれらの河川の扇状地を中心に市街地と穀倉地帯が広がっています。



このため東に奥羽山脈、南から西にかけて吾妻山系と飯豊山系の山並みが眺望でき、南に肥沃で広大な優良農地が拓けた田園地帯と丘陵の傾斜を利用した果樹、野菜、畜産等を組み合わせた緑豊かな農村地帯として、米、野菜のほかにさくらんぼやぶどう、りんご・西洋梨など多くの農産物が市の特産品となっています。

交通網については、国道 13 号と 399 号が南北に縦断し国道 113 号と 348 号が東西に横断しているのに加え、JR 山形新幹線や第 3 セクターであるフラワー長井線が通っており、県南における交通の要衝となっています。観光資源としても、開湯 914 年を誇る赤湯温泉を中心に烏帽子山公園、双松公園、中央花公園、ハイジアパークやスカイパーク、また歴史の香る熊野大社や烏帽子山八幡宮、そして東北最大の稲荷森古墳、また伝説と民話の“夕鶴の里語り部の館”や結城豊太郎記念館など数多くの名所旧跡、自然景観に優れた白竜湖などがあり、恵まれた地理的条件にあります。

また平成 15 年度には、安全で安心なうるおいのあるまちづくり条例を制定し、食の安全にも力を入れています。

2 自然条件・気象

地質は、北部が第三紀層の凝灰岩で織機川扇状地のほとんどもに花崗岩が見られ、南部一帯は第四期層砂礫質壤土となっています。土壌は各河川の堆積層を被覆した肥沃な土壌ですが、白竜湖周辺は谷地地帯となっています。

気候は積雪寒冷地帯にあり、盆地型気候に左右され気温の変化が大きくなっています。ここ10年の気温、降水量や降雪期間などの変化は微減の状況であり、気象の概要は下表のとおりです。

また、台風、集中豪雨、地震等の自然災害も比較的少ない地域でもあります。

平均気温	降雨量	初霜	晩霜	初雪	晩雪	降雪日数
11.5℃	1522mm前後	10月下旬	5月上旬	11月中旬	4月上旬	130日

地勢は、南部が標高 210～280mの平坦地で、北部が 300～800mの山地となり、市全体の2/3が山地によって占められている中山間地域です。

3 おいたち

市内の長岡丘陵からは約1万数千年位前（旧石器時代）の石器が発見されており、また縄文時代の遺跡は約70箇所以上あり、古くから暮らしていた事が分かります。約2千年位前の弥生時代の石庖丁（石製の穂つみ具）が萩生田地内から見つかっており、この頃には稲作文化が伝わったと考えられています。

5世紀中頃には、東北有数の規模をもつ「稲荷森前方後円墳」が造られ、奈良・平安時代には市内郡山に当時の郡役所があったと考えられており、また9世紀には宮内の熊野大社、赤湯の業師寺が創建されたと伝えられています。その後、鎌倉時代の13世紀初頭には、大江時広が地頭に任じられ、1380年伊達氏の支配に変わり、伊達政宗が岩出山に移るまでの211年も続きました。その後蒲生氏が7年間、以後上杉氏支配が明治維新まで続いています。

昭和30年、宮内・漆山・吉野・金山が合併し宮内町に、赤湯・中川が合併し赤湯町に、梨郷・沖郷が合併し和郷村になり、その後合併の機運が盛り上がり昭和42年4月1日、2町1村が合併し市制を施行した若い市で、「南陽」の名前は、当時の県知事が名付け親となり「南陽の菊水」から「北に丘陵、南に沃野、まことに住みよいところ」の字義をもって「南陽市」と命名されました。



十分一山から見る白竜湖周辺

2 農林関係予算

(1) 一般会計決算に占める農林業予算 (単位: 百万円)

※H20, 21は予算額

年 度	5 年	10 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年
決 算 額	13,029	13,452	14,281	12,473	11,890	11,736	11,867	12,237	12,372
農林関係	618	551	365	315	368	310	298	339	331
比率 %	4.75	4.10	2.56	2.53	3.10	2.64	2.51	2.77	2.68

(2) 平成21年度農林業関係予算の概要

	本年予算	前年予算	増 減	摘 要
1 農業委員会費	12,814	13,089	△275	一般管理事業、農業者年金業務、農地管理事業 農業経営基盤強化促進対策事業など
2 農業総務費	130,060	135,082	△5,022	農事実行組合長報酬、職員給与など
3 農業振興費	30,328	44,557	△14,229	稲作・園芸生産振興、農業祭、米粉利用拡大、 制度資金利子補給事業など
4 畜産業費	924	1,535	△611	畜産振興、家畜防疫、畜産振興総合対策事業など
5 農地費	67,551	57,182	10,369	農用地整備、農道維持など
6 水田農業活性化 及び米穀対策費	2,652	2,747	△95	米政策改革推進対策事業、米穀流通など
7 地域農政推進 対策事業費	23,879	21,454	2,425	認定農業者組織育成、支援関係 (流動化助成を含 む)、中山間など
8 山村地域 特別対策事業費	168	376	△208	小滝多目的集会施設・白鷹山遊歩道管理など
9 鉱害復旧及び 管理事業費	12,046	12,046	0	鉱毒防止事業
10 林業総務費	24,202	13,290	10,912	職員給与など
11 林業振興費	25,443	36,413	△10,970	林業振興事業、松くい虫防除、林道維持管理、 企業の森づくり、有害鳥獣駆除など
12 広域基幹林道 整備事業費	907	1,010	△103	置賜東部線・黒森山線維持補修
農林水産業費計	330,974	338,781	△7,807	1項農業費、2項林業費

3 農業経営の特徴

本市の農業は、水稻を基幹作物として果樹・野菜・畜産等を組み合わせた典型的な複合経営で、水稻主体の置賜地域では特異的な存在です。その基盤となる耕地面積は、市総面積の15.7%を占める2,523haで、そのうち水田が1,822ha、果樹園451ha、普通畑174haとなっております。

経営耕地の状況を見ると、県平均を100とした場合、耕地率が137.3、果樹園率が217.3と高くなっていますが、水田率が87.9、1経営体当たりの経営耕地面積が86.2と県平均を下回る低い数値を示しています。経営規模別農家数を見ますと、農地流動化の進展により5haを分岐点として、それ未満の階層では減少し、それ以上の階層では増加する2極分化の傾向を示し、水稻中心の大規模層が近年形成されてきています。

◇ 経営規模別農家数の推移(軸:戸) (1985~2005年センサスより)

	0.5 精	~1.0	~2.0	~3.0	~4.0	~5.0	~7.5	~10.0	10.0 以上
S60	810	596	857	376	142		12		
H 2	740	497	728	325	174		18		
H 4	696	474	638	288	138	42	18		
H 7	655	424	555	255	147	47	33		
H 9	593	419	512	238	122	54	32	3	4
H12	615	373	455	226	118	66	40	11	2
H17	582	301	382	192	158		69		9

※H17年度は農業経営体数。

作物別特徴として、水稻については、「南陽市産米改良協会」で、高品位米の安定生産を主な目標に掲げています。本市の作付け状況は「はえぬき」「コシヒカリ」「ひとめぼれ」の3品種が主体となっており、良品質種の作付け比率が高いため、米の生産地としても高い評価を得ています。

ぶどうは、本県におけるぶどう栽培発祥の地で古くから栽培され、白竜湖を中心とする十分一山等の丘陵地を利用したぶどう栽培景観は、観光客の心をなごませるものとなっています。その反面、傾斜地園地が多く機械化しにくいことや、高齢化等のため耕作放棄になる園地が増加しています。品種構成では、高尾などの大粒系やワイン醸造専用種も近年増えていますが、デラウェアが最も多く栽培されています。

ぶどう以外でも、本市はりんご、おうとう、ラ・フランスの銘柄産地であるとともに、おかひじき、白菜、せいさいなどの葉菜やスイカ、キュウリ、施設トマト等の施設園芸の導入が盛んとなっており、近年は花きも増えてきています。畜産は、稲作との複合経営により、酪農・養豚の大規模飼育化が進んできており、また肉用牛も規模拡大や一貫経営によりブランドの確立が図られてきています。

17年度2月現在の農林業センサスによると、販売があった経営体は1,282経営体であり、そのうち販売金額が1位となった経営体数が最も多かった部門は稲作で573経営体、次いで果樹類560経営体、野菜80経営体、畜産50経営体の順となっており、稲作と果樹で全体の88.0%を占めています。

◇ 販売金額1位の部門別経営体数 (2005年度農林業センサス結果による 単位:経営体)

	販売のあった 経営体数	稲作	工芸作物	露地野菜	施設野菜	果樹類	花卉	酪農	肉用牛	養豚	養鶏
H 7	1,709	995	26	56	22	534	4	40	6	12	-
H12	1,506	763	17	54	24	578	4	35	10	12	2
H17	1,282	573	7	54	26	560	9	29	10	10	1

4 農家構成

(1) 農家戸数

農家戸数については、平成17年2月現在の農林業センサスによると1,693戸で本市全体に占める割合は18%、うち専業農家数は198戸、第一種兼業農家は462戸、第二種兼業農家は1,033戸であり、農外収入を主とする第二種兼業農家の占める割合が、最も高くなっています。

◇ 専業兼業別農家戸数の推移

年次	専業農家		第一種兼業農家		第二種兼業農家	
	戸数	割合(%)	戸数	割合(%)	戸数	割合(%)
H7	245	11.6	710	33.5	1,161	54.9
H12	200	10.5	520	27.3	1,186	62.2
H17	198	11.7	462	27.3	1,033	61.0

◇ 販売金額別農家戸数の推移

年次	農家数	0~50万円	~100万円	~300万円	~500万円	~700万円	~1千万円	~2千万円	~3千万円	3千万円以上
S60	2,793	783	333	902	468	190	70	30	7	10
H2	2,482	725	291	725	374	189	111	47	5	15
H4	2,294	647	288	553	376	222	125	62	9	12
H7	2,116	580	252	538	296	194	145	84	10	17
H9	1,977	577	254	519	266	160	116	63	8	14
H12	1,906	599	229	451	251	161	110	74	11	20
H17	1,693	562	178	371	223	129	119	73	19	19

※H17年度は農業経営体数。

農産物の販売金額別に農家数(割合)を見ると、上の表のとおり1千万円未満の販売農家が減少し、1千万円以上の販売農家が増加しています。これは農家数が年々減少するなか、意欲ある農家は着実に経営の規模拡大や農産物の販売等の確立が図られていることを示しています。

(2) 就農者の現況

昭和30年代後半から高度経済成長に伴って、農家労働力の他産業への移動や新規学卒者を中心とする若年層の大都市への流出が起こり、45年以降は、価格の低迷による農業収入の伸び悩みや農業従事者の高齢化等を背景として、農家数の減少・兼業化が進みました。基幹的農業従事者と新規学卒就農者の減少は、農業の生産構造を脆弱化させています。

このような状況にありながらも、県平均を100とした指数で見ると、農家率は100.6となっており、特に販売農家の専業農家率に於いては115.1と高く、農業就業人口率に於いても124.7と県平均を上回っています。



◇ 就業状態別世帯員数および自営農業に主として従事した世帯員数に占める若年層の割合 《単位：人》

年次	自営業だけに従事した人	自営農業とその他の仕事に従事した人		その他の仕事だけに従事した人	仕事に従事しなかった人	自営農業に主として従事した若年層(15~39歳)の世帯員数と全年齢層に占めるその割合	
		自営農業が主の人	その他の仕事の主の人			世帯員数	割合(%)
S60	3,948	1,097	2,464	1,391	2,083	982(人)	19.5(%)
H7	2,571	693	1,546	905	1,713	337	9.4
H12	2,462	548	1,542	780	749	219	7.3
H17	2,020	599	1,210	723	917	121	4.6

「あつかエル」「ヤゴ捕れた」

首都圏若者ら 田植えツアー 初日は生き物調査

南陽

首都圏で働く若者らのグループ「セガレ」が企画した田植えツアーが、13日から2日間の日程で、南陽市内で始まった。首都圏と地元の若者たちが、農作業ゲームなどを楽しんだ。

セガレは、農家出身ながら農業を継がず東京で働く若者約30人が農業の新たな可能性を探りながら、古里孝行しよと結成。同市漆山出身の渡沢農さん(27)と東京都墨田区Iが代表を務める。ツアーは初の県内イベントで、東京、山形で半々ずつ20〜30代の若

者を集集。この日、新宿から貸し切りバスで訪れた一行と県内から集まったメンバー計約50人が参加した。まず南陽グリーンヒルで、国立ファーム山形支部長を務める村山市の高橋菜穂子さんからUターン就農の経験などの講話を聞いた後、有機栽培



生きもの調査で「ほらいた、あそこ」と歓声を上げる田植えツアーの一行 =南陽市

培を行う漆山地区の水田で男女ペアになり生きもの調査。はだして恐る恐る泥に入ったOも「あつかエル」「ヤゴ捕れたよ」「この魚なに？」と童心に返ってはしゃぎながら、多様な生物が象徴する豊かな自然を実感した様子だった。またサクランボ畑では地面に反射シートを敷く速さを競うゲームなども楽しんだ。

きよう14日は早朝に梨郷神社で座禅からスタート。水田では泥まみれになって遊んだ後、本番の田植えに挑む。

都市機能の中心市街地集積事業の展開

～山形県鶴岡市の取り組み～

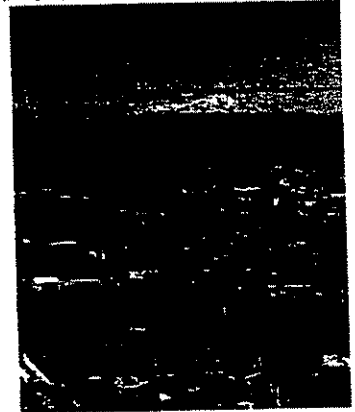
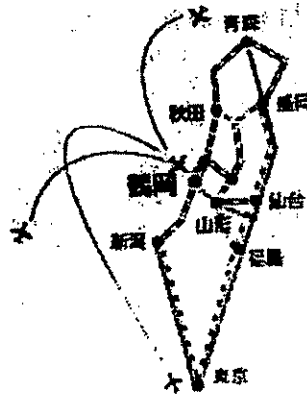
作成者 鶴岡市 都市計画課

1. はじめに (鶴岡市概要)

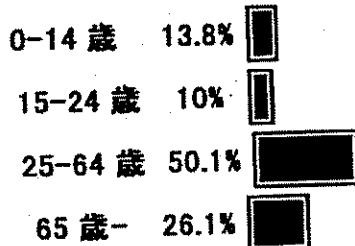
鶴岡市は、1622年徳川四天王の一人酒井家三代忠勝侯入部以来、庄内藩酒井家14万石の城下町として培われて来た。

面積	1,311.49km ²
人口密度	107人/km ²
世帯	47,066世帯
人口	140,896人
人口増加率 (前年比)	△1.05%

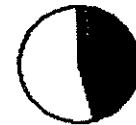
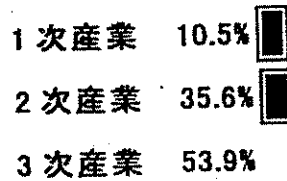
(H20.3.31 住民基本台帳)



■人口構成



■産業構成



産業別の就業人口比率

■鶴岡市概要

【庄内藩の城下町】名峰月山を擁する出羽三山を仰ぎ、日本海を望む庄内平野の中央に位置。自然環境に恵まれ食文化も多彩。江戸期より庄内藩14万石として栄えた城下町。05年10月1日に藤島町・羽黒町・榊引町・朝日村・温海町と合併、新「鶴岡市」に。

【学術研究都市】慶大先端生命科学研や山形大農学部、鶴岡工高専はじめ、05年春には東北公益文科大学大学院も開設。高等教育・研究機関の集積活かし「鶴岡バイオキャンパス特区計画」や「鶴岡研究産業都市再生計画」で自立した地域づくりをめざす。

【特産・酒】カスタムLSI、超小型精密モーター、自動車部品、庄内米、だだちゃ豆、鮮魚、メロン、庄内柿、孟宗汁、いづめこ人形、御殿まり、絵蠟燭、竹塗漆器、庄内竿、絹織物(酒)大山、富士、出羽ノ雪、白梅

【イベント】冬まつり(1~2月)、雛まつり(3月)、天神祭(5月)、大山犬祭り(6月)、庄内大祭・赤川花火大会(8月)、庄内百万石まつり(11月)

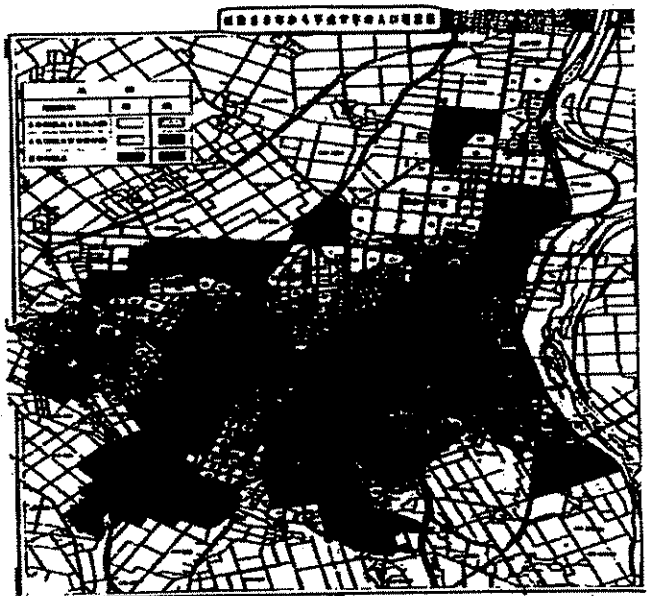
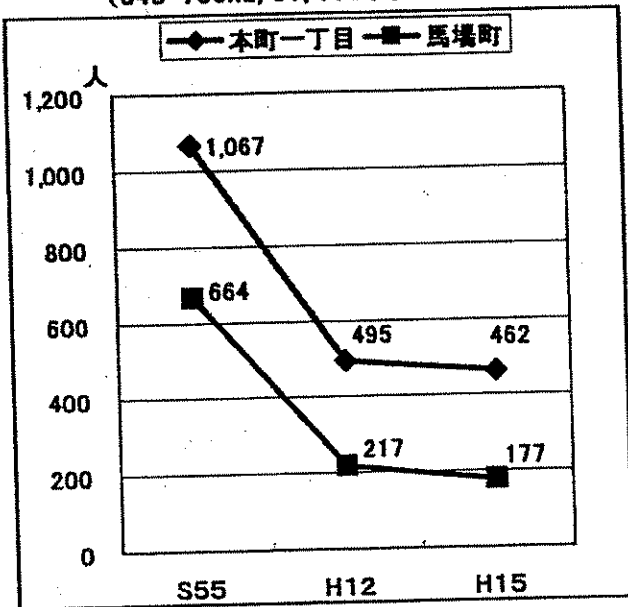
【日本一】だだちゃ豆の産地、学校給食発祥の地、市立加茂水族館のクラゲ展示数(世界一)

【出身者】高山樗牛(文学者)、松森胤保(科学者)、石原莞爾(軍人)、丸谷才一・藤沢周平・佐藤賢一(作家)、相良守峯(独文学者)、渡部昇一(言語学者)

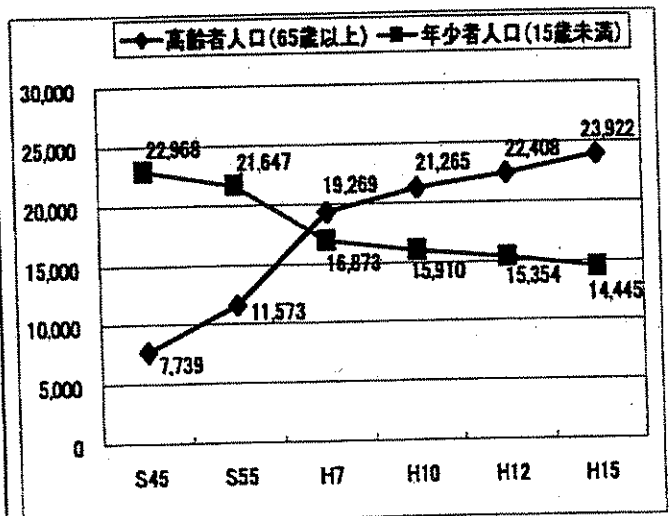
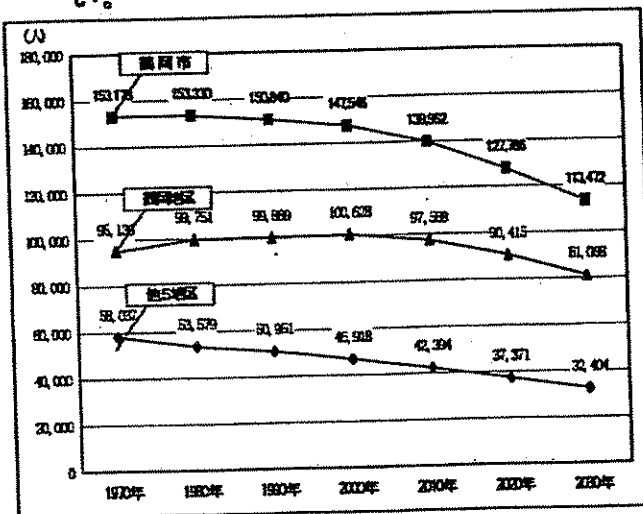
2. まちの現状

鶴岡市（旧鶴岡市）の人口はこの30年間ほぼ10万人で推移しているものの、将来的な減少は必至となっている。

1. [人口スライド] 昭和40年代以降の新興住宅地の宅地造成や商店街の職住分離により核家族化進展に伴う世帯分離の増進。(S45~23,616世帯→H12~32,826世帯 約1.4倍)
2. [DID地区拡大]
 - ①ロードサイド型ショッピングセンターの郊外進出
 - ②若年層を中心とした「ゆとりある住環境」を求めての郊外部へ住み替え
 - ③農業環境悪化に伴う農地の新たな宅地化。等により市街地・DID地区の拡大。
(S45~730ha/51,738人→H7~1,370ha/64,354人 約1.9倍/約1.3倍)



この結果として、市街地中心部では、居住人口の減少(例:馬場町 s55~664人→H15~177人 Δ73.3%、本町一丁目 s55~1,067人→H15~462人 Δ56.7%)が著しく、少子化とあいまって高齢化率(H12~市平均22.3% 馬場町31.6% 本町一丁目32.9%)の伸張に拍車を掛けており、中心商店街のみならず、既存住宅地を含む市街地中心部全体の空洞化が著しい。



国立社会保障・人口問題研究所 (H15 推計)

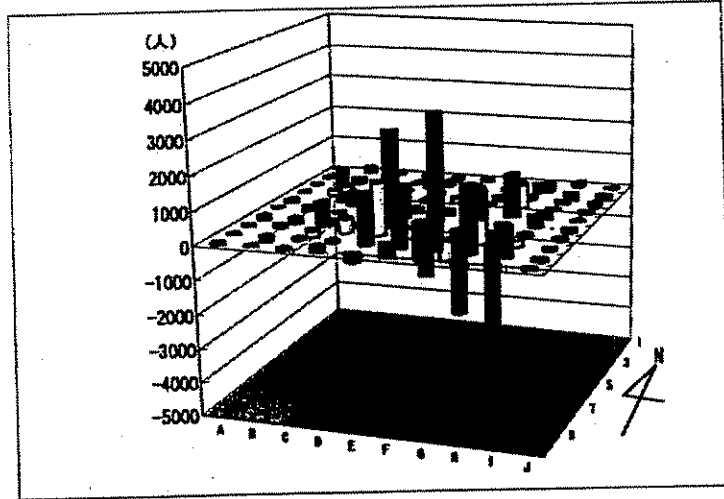
少子・高齢化の現状

3. 中心市街地：現状

コンパクトシティの必要性②

■市域エリア別人口増減数 (S52-H12 比較)

出典：H17「人口減少高齢社会における都市のあり方調査」

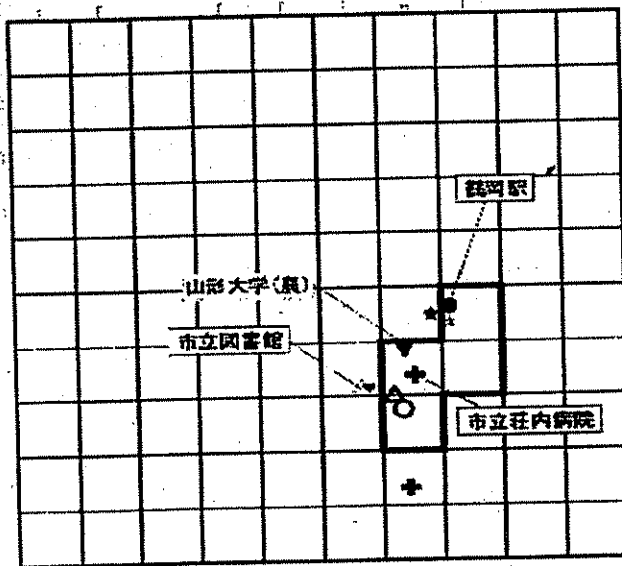


	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	-1,014			-361	-81	-37	-188	-243		-13
2		-128				-176			-178	-133
3	0	-158			-11		-89		-87	-204
4	11			-81	-34			-13		-61
5	-59	-745			-86	-89				-17
6	11		0						-618	-78
7	-89	-110		-80		-2,388	-2,427	-4,088		-38
8	-34		-215				-573			-27
9		-118								-53
10	-18		-23			-287				-75

中心市街地 (4km ²) 増減数	-10220
その他の市域 (96km ²) 増減数	17450
市域 (100km ²) 増減数	7230
セル色凡例	
	1,000人以上減少
	1,000人以上増加

■市域エリア別施設配置図

(H17「人口減少高齢社会における都市のあり方調査」)



凡例

施設種別	主要駅		
	現在	移転中	
公共施設等	●	●	県庁
	○	○	市役所
	+	+	主要病院
	△	△	県・市立図書館
	■	■	県・市立文化施設
大学	▽	▽	大学・短大
	★		大規模小売店舗
地			昭和49年以前
			昭和50～59年
			昭和60～平成6年
			平成7年以降

*1) 主要病院は、国公立病院及びその他の病院については200床以上の病床とした

*2) 大規模小売店舗は、店舗面積6,000㎡以上の店舗

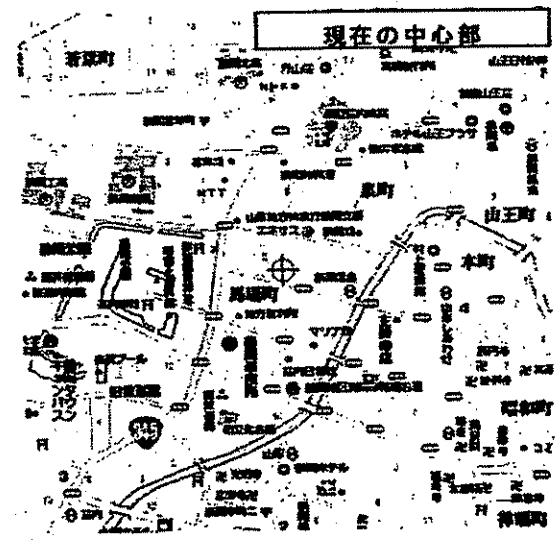
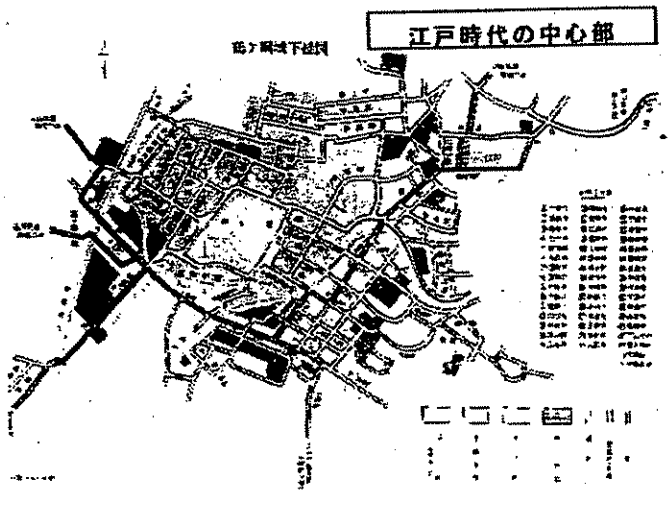
(傾向) MESH (H6・H7・G7・G8)

- ・ 公共施設は中心部の4km²範囲内に集中している。
- ・ 居住施設は中心部の4km²範囲内が激減している。

(対策)

- ・ 中心市街地の利便性を高め、流入人口および周辺地区の居住人口を促進する。
- ・ 公共施設の郊外移転に伴う商業機能移転や宅地化を阻止できる。

→コンパクトシティの必要性



3. 市民と協働してまちづくりを取り組む

このようなまちの状況を踏まえて、これからのまちづくりの在り様を探るべく、民・官・学三者連携のワークショップを開催しまちづくりの計画を策定してきた。

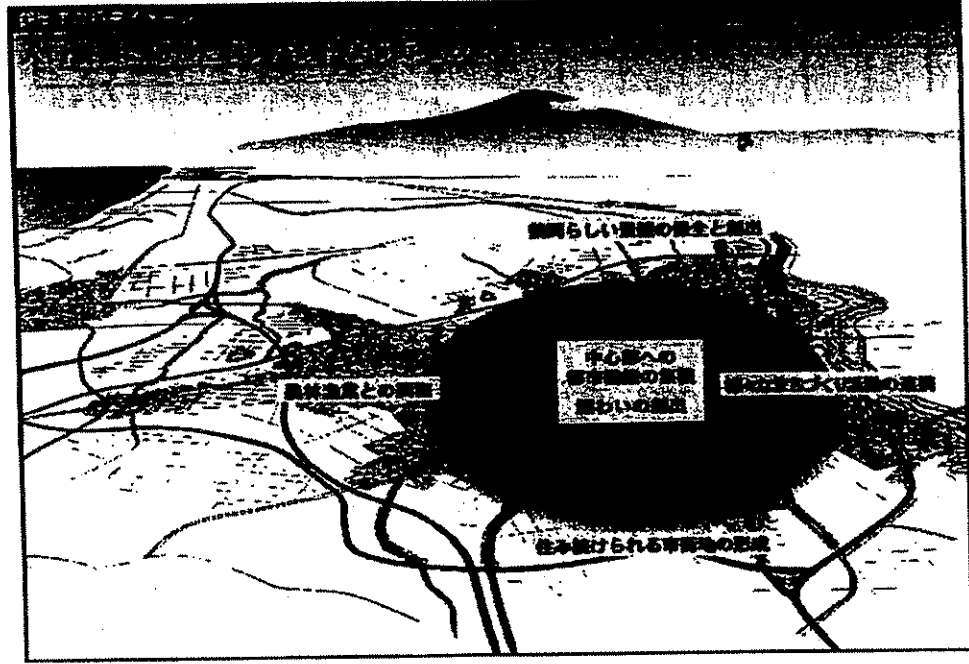
- ・ 中心市街地活性化基本計画 (H11.3)
- ・ 歩いて暮らせるまちづくりモデル調査 (H13.3)
- ・ 都市計画マスタープラン (H13.6)

上記計画策定指導機関…
早稲田大学理工学部佐藤滋研究室による「まちづくりデザインゲーム」を活用した市民ワークショップを開催した。



4. まちづくりの方向性 (都市計画マスタープラン)

無秩序な市街地拡大の抑制し、都市コストを低減させ、人口規模に応じた都市づくりのために、高度経済成長期に分散した都市機能の中心市街地への再集積を図る。



ヨロシ

鶴岡市中心市街地の施設整備 (コンパクトシティの実践)

・都市機能の再集積 ・新たな都市機能の導入 ・歩いて暮らせるまちづくり・都心居住の促進



(1) 鶴岡タウンキャンパス～TTCK 新世紀を担う新たな都市機能の導入

※H13.5 慶応義塾先端生命科学研究所

※H17.4 東北公益文科大学大学院

◆データ：東北公益大院…カリキュラム

①公益経営 (1. 非営利組織の経営 2. 企業の社会的責任・社会貢献経営)

②公益の科学・まちづくり (1. 安全と公益の科学、2. 市民と行政の共創によるまちづくり、3. 公益政策)

平成15年4月には、当該キャンパスを中心とする「鶴岡バイオキャンパス特区」が認定され、市域全域を対象に新世紀を担うバイオ関連の研究と産業集積による地域振興が期待されている。平成16年には地域再生計画に認定された。

◆データ：研究成果…「慶応義塾大学先端生命科学研究所」メタボローム解析技術



(2) 「市立庄内病院」のまちなか移転 ～中心市街地での建て替え

※H15.7 開院

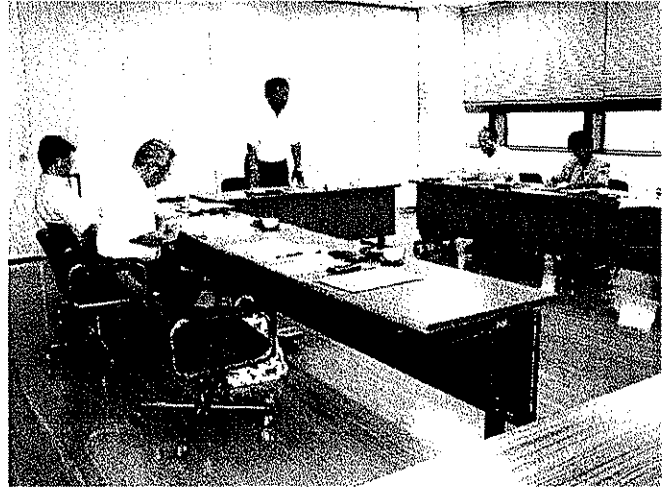
診療科目24科、病床数520床を数える庄内地方の中核病院である市立庄内病院の改築については、大規模な駐車場用地の確保が容易な郊外部への建設も議論されたが、中心市街地の都市機能、求心力の維持、更には大規模遊休地活用を念頭に、約200mを隔てる工場跡地に於いて移転建設が進められ開院した。



○7月28日(火) 山形県長井市 (NPO 法人 レインボープラン市民市場 虹の駅)



○7月29日(水) 山形県南陽市



○7月30日(木) 山形県鶴岡市

